

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

1/5



- 歌 決
- ○ 1 わが衣手は 露にぬれつつ
- ○ 2 衣ほすてふ 天の香具山
- ○ 3 長々し夜を 独りかも寝む
- ○ 4 富士の高嶺に 雪は降りつつ
- ○ 5 声聞く時ぞ 秋は悲しき
- ○ 6 白きを見れば 夜ぞ更けにける
- ○ 7 三笠の山に 出でし月かも
- ○ 8 世をうぢ山と 人はいふなり
- ○ 9 我が身世にふる ながめせし間に
- ○ 10 知るも知らぬも 逢坂の関
- ○ 11 人には告げよ 海人の釣り舟
- ○ 12 をとめの姿 しばしとどめむ
- ○ 13 恋ぞつもりて 淵となりぬる
- ○ 14 乱れそめにし 我ならなくに
- ○ 15 我が衣手に 雪は降りつつ
- ○ 16 まつとし聞かば 今帰り来む
- ○ 17 唐紅に 水くくるとは
- ○ 18 夢の通ひ路 人目よくらむ
- ○ 19 逢はでこの世を 過ぐしてよとや
- ○ 20 みをつくしても 逢はむとぞ思ふ

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

2/5



- 歌決
- ○ 21 有り明けの月を待ち出でつるかな
- ○ 22 むべ山風を嵐といふらむ
- ○ 23 我が身一つの秋にはあらねど
- ○ 24 紅葉の錦神のまにまに
- ○ 25 人に知られでくるよしもがな
- ○ 26 今一度の行幸待たなむ
- ○ 27 いつ見きとてか恋しかるらむ
- ○ 28 人目も草もかれぬと思へば
- ○ 29 置きまどはせる白菊の花
- ○ 30 暁ばかり憂きものはなし
- ○ 31 吉野の里に降れる白雪
- ○ 32 流れもあへぬ紅葉なりけり
- ○ 33 しづ心なく花の散るらむ
- ○ 34 松も昔の友ならなくに
- ○ 35 花ぞ昔の香にほひける
- ○ 36 雲のいづこに月宿るらむ
- ○ 37 貫き止めぬ玉ぞ散りける
- ○ 38 人の命の惜しくもあるかな
- ○ 39 あまりてなどか人の恋しき
- ○ 40 物や思ふと人の問ふまで

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

3/5



- 歌 決
- 41 人知れずこそ 思ひ初めしか
- 42 末の松山波越さじとは
- 43 昔は物を 思はざりけり
- 44 人をも身をも 恨みざらまし
- 45 身のいたづらになりぬべきかな
- 46 ゆくへも知らぬ 恋の道かな
- 47 人こそ見えね 秋は来にけり
- 48 くだけて物を 思ふ頃かな
- 49 昼は消えつつ 物をこそ思へ
- 50 長くもがなと 思ひけるかな
- 51 さしも知らじな 燃ゆる思ひを
- 52 なほ恨めしき 朝ぼらけかな
- 53 いかにかに久しきものとかは知る
- 54 今日を限りの 命ともがな
- 55 名こそ流れて なほ聞こえけれ
- 56 今一度の逢ふこともがな
- 57 雲隠れにし 夜半の月かな
- 58 いでそよ人を 忘れやはする
- 59 傾くまでの 月を見しかな
- 60 まだふみも見ず 天の橋立

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

4/5



- 歌決
- 61 今日九重に 匂ひぬるかな
よに逢坂の 関は許さじ
- 62 人づてならで いふよしもがな
- 63 あらはれ渡る 瀬々の網代木
- 64 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ
- 65 花より外に 知る人もなし
- 66 かひなく立たむ 名こそ惜しけれ
- 67 恋しかるべき 夜半の月かな
- 68 龍田の川の 錦なりけり
- 69 いづこも同じ 秋の夕暮れ
- 70 芦のまろやに 秋風ぞ吹く
- 71 かけじや袖の 濡れもこそすれ
- 72 外山の霞 たたずもあらなむ
- 73 はげしかれとは 祈らぬものを
- 74 あはれ今年 秋もいぬめり
- 75 雲居にまがふ 沖つ白波
- 76 われても末に あはむとぞ思ふ
- 77 幾夜寝覚めぬ 須磨の関守
- 78 もれ出づる月の 影のさやけさ
- 79 乱れてけさは 物をこそ思へ

下の句を読んで、決まり字、上の句を言ってみよう。

5/5



- 歌 決
- 81 ただ有り明けの月ぞ残れる
- 82 憂きにたへぬは涙なりけり
- 83 山の奥にも鹿ぞ鳴くなる
- 84 憂しと見し世ぞ今は恋しき
- 85 閨のひまさへつれなかりけり
- 86 かこち顔なるわが涙かな
- 87 霧立ちのぼる秋の夕暮れ
- 88 みをつくしてや恋ひわたるべき
- 89 忍ぶることの弱りもぞする
- 90 濡れにぞ濡れし色は変はらず
- 91 衣かたしきひとりかも寝む
- 92 人こそ知らね乾く間もなし
- 93 海人の小舟の綱手かなしも
- 94 ふるさと寒く衣打つなり
- 95 我が立つ袖に墨染の袖
- 96 ふりゆくものは我が身なりけり
- 97 焼くや藻塩の身もこがれつつ
- 98 みそぎぞ夏のしるしなりける
- 99 世を思ふ故にもの思ふ身は
- 100 なほあまりある昔なりけり